

# 令和4年度学校評価報告書

令和5年3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道苫小牧総合経済高等学校長 古市俊章

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>1 心身の健康増進と安全に行動する態度の育成を図る</li> <li>2 学習意欲の育成と学習習慣の定着を図る</li> <li>3 豊かな人間性と社会性の育成を図る</li> <li>4 望ましい勤労観・職業観の育成と進路実現を図る</li> </ul>
---

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着を図る授業については、教科の特性を生かした工夫や改善を行い指導の展開が行われている。</li> <li>・生徒の学習活動に対する興味関心を高めるため、各種検定試験の資格取得を奨励し、学習意欲の高揚を意識付けるため補習等の取組を行った。</li> <li>・自主的計画的な家庭での学習習慣の定着に向け、指導内容の体系化と焦点化を図るため、より一層の各教科との横断的な授業について共通理解を深める必要がある。今後は研究授業、教科研修、実践の機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習の定着を図る取組を引き続き進めていただきたい。</li> <li>・学校の特色を生かした学習活動が行われている。</li> <li>・教員の取組が学校全体の学力向上につながっている</li> <li>・卒業後、社会で通用する知識や技能の向上に一層努めてほしい。</li> <li>・地域の教育力を活かしていただきたい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の定着に向けて、各教科間が連携を図るため課題等の精選に取り組むことが必要。</li> <li>・学習に対する達成感や成就感を高めるため、習熟度別授業、チームティーチングの展開するなど、組織としての取組が必要。</li> <li>・生徒の実態を把握するとともに、普段の学校生活から社会に通用する姿勢を示していくことが必要。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基本的な生活習慣の確立や教職員と生徒との信頼関係の確立、概ね良好である。</li> <li>・昨年度に続き、教員による玄関指導に取り組んだ。その結果、遅刻、身だしなみ等に関する指導のみならず、生徒への声かけ等により状況把握に努めることができた。</li> <li>・分掌主導による全校教育相談の実施など、相談機会をより多く設け、心の相談委員会を活性化し、対応に取り組んだ。</li> <li>・人権や生命を尊重する態度の育成のため、地域社会と接する機会への積極的な参加を推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来校の際、生徒の元気な挨拶がある。</li> <li>・社会人として必要な挨拶を始めとするコミュニケーション能力の育成に更に心がけてほしい。</li> <li>・身だしなみについては良好であり、好感が持てる。</li> <li>・SNSの使用について、様々な問題も発生しているが、校内での対応で指導していただいている。今後もモラルなどについて指導に努めてほしい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の共通理解、共通実践による全職員が統一した指導方針に基づいた生徒指導の充実。</li> <li>・教育相談の必要な生徒への更なる対応と、心の相談委員会やスクールカウンセラーを活用した教育相談の充実。</li> <li>・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した進路シラバスの運用を行った。個別に応じた情報提供は概ねできている。</li> <li>・学年団と進路指導部の連携強化に努めた。また、面接指導・履歴書の書き方等しっかりとした指導体制に取り組んだ。</li> <li>・引き続き、各組織の連携をもとに、ビジネスマナーの徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元志向が強く、職種が事務系、販売系に就職する生徒が多い状況の中、新規開拓等を進めていただいている。</li> <li>・引き続き、企業の職種の形態の変化について、教職員を始め生徒・保護者へ説明や情報発信に努めてほしい。</li> <li>・商業高校の特性を生かした進学への対応が必要。</li> <li>・来年度も、知識技術を身に付けた生徒の育成に期待する。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路シラバスに基づき、進路指導部と学年との連携を密にし、3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進。</li> <li>・進路相談員の活用や地域との連携による進路指導の充実。</li> <li>・今年度同様、新規事業所の開拓</li> </ul>	
国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化交流プログラムに取り組んだ。</li> <li>・海外での見学旅行実施に向けた課題の整理等、継続して検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の状況を踏まえながら、海外への見学旅行継続について、生徒に広い視野を持たせるために有効である。台湾の高校とのさらなる相互理解のため、本校生徒への国際理解教育のさらなる充実、取組が必要である。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済科の特色として国際理解教育の推進および学校設定科目「東アジア言語文化入門」の学習内容の充実。</li> <li>・引き続き、交流に向けた学習の内容を検討する。</li> </ul>	
地域や保護者と連携した教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒に対し、地域社会に向き知見を深める取組の推進を図ることから、多くの地域人材を活用した授業を実施することができた。</li> <li>・限られた制限の中ではあるが、PTA活動に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材を活用した教育活動が行われている。</li> <li>・学校の情報発信について、引き続き進めてほしい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の展開として地元企業との更なる連携。</li> <li>・生徒の学習内容や活動等の積極的な情報の発信。</li> </ul>	
教職員の危機管理・働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症対策については概ね良好である。</li> <li>・教職員の服務規律の意識は概ね良好と思われるが、校内研修を通じて更なる高揚が必要である。</li> <li>・非常時の生徒の安全・安心のため、災害時に備えた学校が対応すべき内容の点検が必要である。</li> <li>・危機管理に対する研修の充実。(AED操作実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害等への、危機管理意識の向上が求められる。</li> <li>・教職員の不祥事は社会的影響力が大きいため、服務規律の保持を図る必要がある。</li> <li>・学校への信頼は学習面だけでなく、人格形成に対する期待も大きいことを意識して欲しい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応について、マニュアルの再確認、校内研修による知識技術の習得</li> <li>・次年度に向けて、更なる北海道アクションプランに沿った取組の推進</li> </ul>	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校Webページでの公表を予定 ・PTA会議等での公表を予定</li> </ul>	

## 3 添付書類

- ・令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書(生徒、保護者、学校評議員)